

高齢者の人権

○ 高齢者だからこそできる、大切なことがある。

竹トンボやお手玉など、子どもたちに昔の遊びを覚えてくれるおじいちゃんおばあちゃん。

昔の文化や暮らしを若い世代に伝えていくことは、高齢者の生きがいになるだけでなく、若い世代には学びにもなります。

長年培ってきた知識や経験を、たくさん持っている高齢者だからこそできることを、みんなで大切にしていきましょう。



○ 声をかけあい、高齢者を1人にしない社会へ

● 高齢者がいつまでも自分らしく生きるために

かつては、大家族の中で、高齢者の知恵や技術が、自然に子や孫に受け継がれていきましたが、これからは、地域社会の中で積極的にふれあいの場をつくっていくことが大切です。「年がいもなく」「年だからもうムリ」などと、高齢者の意見や可能性を否定せず、これまで培ってきた豊富な知識や経験を、みんなで共有できるような社会を目指していきましょう。自分らしく生きたいという気持ちは、みな同じです。

● 高齢化が進んでる私たちの地域

木島平村では、すでに平成26年までに3人に1人が高齢者となると予測されており

ます。超高齢社会への対応は、大変重要な課題の一つになっています。高齢者が住み慣れた地域で尊厳の持って安心して暮らしていけるよう、地域全体での支援や配慮がとても大切です。



● ご近所のあなたに、できることから

あなたのご近所にどんな人たちが暮らしているのか知っていますか。一人暮らしの高齢者や高齢夫婦にとって、何かと頼りになるのは「遠くの親戚より近くの他人」と言うようにご近所さんです。

気軽なあいさつから始められるコミュニケーションもあります。いつも、ちょっと気にかける。それが高齢者の見守りにつながります。

○ 一緒に考えよう、高齢者の人権

● 悪徳商法

不必要なリフォームを契約させたり、悪質な投資話を持ちかけたりするなど、高齢者の「お金」「健康」「孤独」などの不安をあおった悪徳商法が増えています。高齢者一人で判断せず、家族や周囲の人に相談することが、被害を未然に防ぐことにつながります。

● 高齢者への虐待

たたく、つねるなどの身体的暴力の他にも、介護や世話を放棄したり、精神的に追いつめたり、年金や預金を本人の意思に反して使うことなども虐待になります。高齢者の虐待は、家族の介護疲れや家族関係、経済状況など、さまざまな要因が絡み合って生じていることが多く、周囲の人の早期発見・早期対応が望まれます。

● 認知症の人の気持ちを無視

認知症とは、アルツハイマー病や脳血管障がいなどの脳の病気によって記憶力や判断力が低下することで、日常生活に支障が生じている状態をいいます。

しかし、認知症になったからといって知的な機能のすべてが、一度に失われてしまう訳ではなく、以前から覚えていた知識や印象が深かった出来事の記憶、そして感情は認知症が進行しても残っています。本人の尊厳を認めながら接することが大切なのです。

